

岡田小学校区タウンミーティング議事録

開催日 平成 29 年 7 月 18 日 13 : 30 ~

場所 : 保健センター研修室

- 1 市長挨拶
- 2 市側及び区側出席者紹介
- 3 事業報告及び話し合い 各部長より説明
 - ①コミュニティスクールについて (教育長)
 - ②生活支援体制整備について (保健福祉部長)
 - ③牛久市第 3 次総合計画後期基本計画 (経営企画部長)
- 4 行政区の意見等話し合い

【栄町行政区】

区長 : 年 2 回 (定期総会・敬老大会) 学習センター多目的ホールを借りているが、日程等の関係で会場の確保 (予約) が非常に難しい状況にある。4 月 9 日に定期総会を行った際、ゴッタ市と同時開催となり、駐車場がほぼ使用できなかつたため、定期総会の通知文に「車に頼らない交通機関を利用して集うこと」の一文を記載し回覧した経緯もある。会場使用の希望日時等をあらかじめ市側に連絡するので、市側主導で会場の確保をお願いしたいと思っている。他の行政区も多目的ホールを借りる場合があると、内々で市民活動課から聞いていたので、今回質問をさせてもらった。市民活動課からは、早めに申し込みをすれば、市側で会場を確保するとの回答であったが、そのような認識でいてよいか。

教育部次長 : 区民会館では収容しきれない規模の行政区事業であれば、担当課と調整のうえ、市の行事ということで一般受付より前に申請することができる。市の行事と重複した場合は、希望が取れない場合がある。生涯学習センターは前期と後期に申請を分けている。4 月 ~ 9 月の申請は、市 (各課) : 12 月、施設利用の団体 : 1 月、一般受付 : 2 月という流れで行っている。11 月末くらいに日程を教えていただければ、会場の確保は可能。日程が決まり次第、市民活動課まで相談してほしい。

区長 : 側溝の蓋かけについては、従前と異なり危険性の高い所から取り組むとの方針に転換したようだが、事前に私ども区長に対する連絡がなかった。様々な理由により方針転換されたものと理解はしているが、行政区に関連する事項について方針転換する場合は、事前に連絡をお願いしたい。

建設部長 : 以前は、路線単位での蓋かけを実施しておりましたが、側溝そのものが蓋と舗装の高さが同じとなる構造ではないため、蓋をかけた後に段差が生じた等の苦情が非常に多いことから、現在は、隅切りなど脱輪等が懸念される危険箇所について、行政区と相談しながら必要最小限行っています。

【下根ヶ丘行政区】

区長：かっぱバスについて、下根ヶ丘では牛久駅東口を起点とする小坂団地ルートが運行しているが、年々増加する高齢者を鑑み、買い物の利便性を向上させるため、ショッピングのできるひたち野牛久駅行のルート改善を希望する。

また、通学路である岡田小学校から下根中学校への道路が狭く、特に朝・夕の通学時間帯は交通量も多く危険である。歩道も一部しかない。早急な道路整備を希望する

経営企画部長：現在のかっぱ号の利用状況は一便当り 10 人を超える高水準であり、現行のかっぱ号の運行体制下では、大きなルート変更は難しい状況である。

本年度末まで実証運行されている稲敷エリア広域バスが下根ヶ丘行政区付近を通っているので、実証運行が本運行になる場合には、下根ヶ丘を通るルート見直しについて、参加している他の市町村及び茨城県と協議の上、要望していく。また、かっぱ号ルート見直しの際には検討材料の中に入れる。

建設部長：拡幅整備の実施には、長期間にわたる事業展開となるため、早急な整備は非常に困難ではあるが、今後、国・県との協議を実施するなど、早期の事業化を検討していく。今後、応急的な対策として、路面表示やガードレール等を設置し転落防止などの安全対策を検討していく。

【東下根行政区】

区長：市道 52 号線、圏央道から北側拡張工事をお願いしたい。道幅が狭く、道路の損傷も激しい。

建設部長：完了区間と同様に国の補助事業として整備が出来るよう、国・県との協議を進めて参りますが、整備延長が長くまた、雨水の排水先の確保等、課題が多い路線なので、中長期的な事業展開が必要であると考えている。道路の損傷に関しては、舗装するなど緊急的な対応をしていきたいと思っている。担当者が道路の現状を歩いて確認しているが、情報が地元にあったら道路整備課に一報をいただきたい。

【東岡見行政区】

区長：空家対策について、今後どのような方針を考えているのか具体的に教えてほしい。また、高齢化に伴う交通対策についてどのように考えているか。岡田小地区社協で実施したアンケートでは、70%の割合で、かっぱ号の料金が多少値上がってもよいとの結果であった。

建設部長：東岡見行政区内の空家情報は 14 件を把握しており、居住・更地・適正管理されているものが 11 件、管理されているが、若干草の繁茂が見られるものが 3 件となっている。

6月に空家対策計画の素案に対するパブリックコメントを実施し、市民の皆さまに意見をいただいた。現在、最終素案のとりまとめを行っている。7月末に空家対策協議会を実施予定。空家対策に係る基本的な方針としては、「空家等の発生予防と抑制」、「空家等の利活用の促進（空家バンク等）」、「管理不全空家の解消」と大きく3つを基本として進めていく。生活環境に影響を及ぼす空家（特定空家）については、認定後、指導助言→勧告命令→行政代執行と法の手続きを踏んで対処していくが、行政代執行に至る前に、各所有者がそれぞれの責任においてしかるべき対応をされることを期待している。行政代執行経費は、8割を自治体が負担している。実施された際は、所有者からいかに経費を回収するかが大きな問題になっている。改めて空家対策について策定している計画がまとめ次第、説明会を実施していく。

経営企画部長：市としては、平成28年6月に策定した「牛久市地域公共交通網形成計画」において、コミュニティバスは路線バスを補完するバス路線と位置付けております。このため、沿線行政区の意見等から既存の路線バスの利用増加が見込める状況であれば、バス会社に増便要望をしていく。高齢者向けの対策としては、ドア・ツウ・ドア型サービスの導入が必要と考えており、地区社協などのボランティア移送サービスへの支援や乗合型タクシーの導入について検討している。また、バス料金値上げに関しての意見については、現在、かっぱバスは国や市から補助金を導入して運行しているため、値上げをしたからといって増便に繋がるわけではない。ご理解をいただきたい。

区長：（路線等に関して）多少便利になったからと言って、バスを利用する人が増えるかといったらクエスチョンだが、高齢化に伴いドア・ツウ・ドア型サービスの要望が増えているため、これからどのように解決していくかが非常に難しい問題。行政区も力を出していかなければならない。行政と共同して良い方法を考えていきたいと思っている。

【上柏田行政区】

区長：国指定重要文化財「シャトーカミヤ」旧醸造場施設を、日本遺産認定への取り組み活動をし、地域活性化につなげたいとの表明があったが、日本遺産認定への登録だけでは地域活性化は望めないと考える。市の方針として、今後どのようなプランがあるのか具体的に聞きたい。

また、2年後に茨城国体があり牛久市でも軟式野球が開催されるが、今の球場では内野・外野席とも収容人数席が無いと思われるが、今後改装の方針などあるのか伺いたい。国体を通して牛久市を有名にできればと考えている。

教育部次長：日本遺産とは、地域の文化財を核とした様々な取り組みを支援することを目的に創設されたものである。仮に牛久市が日本遺産に認定された場合には、そのブランドを最大限に活用した観光客誘致による地域経済の活性化などを想定している。2020年には東京オリンピックが開催され、外国人が増えることが想定されるが、そのような人たちを

地域に取り込むことができれば、観光交流やまちおこしに繋がるため、全国の自治体が日本遺産認定に向けて取り組みを進めている。国は、2020年までに100件程度の日本遺産認定を目指しており、今年度までで54件認定されている。具体的なプランについては、今後共同で申請する山梨県甲州市や茨城県との協議を行ない検討してまいります。

また、茨城国体軟式野球競技は県内6市での共催で、牛久市では2日間で1回戦を含む4試合行う予定。また、会場となる野球場については、全日本軟式野球連盟及び茨城県軟式野球連盟より、現状の観客席数及び球場内諸施設での開催に対しての了解をいただいている。今後の改修計画については、テニスコート側への防球ネット設置、1塁・3塁内野スタンドの増築、メインスタンドへの屋根設置等、国体終了後の平成32年度以降計画的に進めて行く。

市長：日本遺産認定に向けてはシャトーカミヤだけではできないため、ワインとのストーリー性を持つ甲州市と共同で行っていく。甲州市は人口の過疎化が進んでいる。その一策となるためにも今回の日本遺産認定は非常に大切だと甲州市長も言っていた。牛久市は街をさらにPRしたい考えを持っている。あみアウトレット、大仏などに加えて、シャトーカミヤが日本遺産に認定されれば、更なる観光資源になると思う。日本遺産を活用した地域活性化に係る取り組みへの支援、PR活動に対して国から補助金が出る。補助金を活用しながら牛久市をPRしていきたい。

野球場に関しては、現在4千人の観客収容。6千人の収容数がないと高校野球の公式試合ができない。県南では土浦球場の一か所しかないため、観客収容が6千人規模であれば牛久市の野球場で県南の予選大会が開催されたかもしれないとおもうと残念だが、今年の9月2日に日本ハムファイターズがイースタンリーグを行う予定。日本ハムファイターズは、県南県西地区において野球を通じた地域のコミュニティづくりをしようとしている。通年的に牛久市でイースタンリーグが開催されている。スポーツを通じてのコミュニティづくりが盛んになることが予想される。懸念されていた駐車場に関しては、国体に向けて工事を進めている。今後も運動場広場を整備していく予定である。

経営企画部長：市内の観光資源のみならず、近隣のあみプレミアムアウトレットや牛久沼を活用して地域の活性化を図るため、先日開催された牛久沼周辺6市町での首長会議でも協議された様に、牛久市だけではなく近隣市町との連携図り、具体案を研究し推進していく。

【中柏田行政区】

区長：セントラル総合クリニック正門のT字路から408号線へ出る際、右側の植込みが約1mあるため、見通しが悪い。右からくる車がほとんど見えないので大変危険。セントラル総合クリニックが開院されてからは、交通量が多くなった。現状では大きな事故につながりかねないので、植え込みを50cmぐらいの高さにできないか。対策はないか。

建設部長：当該場所は道路がカーブしており、坂道で低くなっているあるため、右側からく

る車が見えないという状況を現場確認してきた。6月29日に、意見のあったクリニック前の刈込を実施した。その他408号栄町三丁目交差点～中柏田交差点間についても順次刈込を実施し、7月1日に終了している。今後も十分な管理をおこなっていく。

【下柏田行政区】

区長：日頃より、市執行部のみなさまにはお世話になっており、改めてお礼を申し上げます。市道8号線の整備に関して、工事が進み残り120mあまりと聞いているが、両側から工事施工をしているものの、墓地のカーブから住宅が並んでいる区間が残っている。前後が開通して交通量も多く、スピードを出した車が両方からやってくる。安全確保のためにも年内の早期開通を望む。金の台から出入りの車が多く、見通しが悪い。

建設部長：昨年度より施工している工事については、6月末に完了いたしました。残りの区間については、年内に全線完了できるよう現在準備中です。引き続き、工事へのご協力をお願いいたします。

【松ヶ丘行政区】

区長：既存意見に関しては、すでに解決済み。排水路のあふれ（上柏田4-8-10・-6）により、駐車場（4-7-12）に雨水が流れこんでしまう。何か月か前に市に相談した際、測量が進められているとのことであったので、近々解決されると思われる。現在、かっぱ号は松ヶ丘を通ることなく運行している。松ヶ丘は南北に長い自治会だが、端に住む高齢者から、かっぱ号を利用する際、大通りにあるバス停まで出るのが大変との意見を受けている。次のルート見直し時期には、松ヶ丘の中（松ヶ丘自治会館）を通るルートを考えてほしい。前回の道路側溝の修復については、上蓋を付けるなどコーナーの修復をしていただき、安全に曲がれるよう修正された。

建設部長：当該場所は、現在2系統の雨水が一箇所に集まるため、その会合部において雨水があふれる状況でありますので、今後、ルートを分ける工事を実施してまいります。

経営企画部長：多くの行政区からかっぱ号についての要望を受けている。現在のかっぱ号ルートは、かっぱ号の車両サイズや道路形状・幅員、運行の安全性を考慮して決定しております。松ヶ丘自治会館前の道路は広く、停車することもできるが、他の道路やセントラルクリニック側からの団地出入り口の幅員が狭く、現時点では、行政区中心部へのかっぱ号乗り入れが難しい状況である。

【岡見行政区】

区長：新規意見はなし。道路補修や交通安全対策等については、各担当課職員と協議し、すべて解決している。

【第8岡見行政区】

区長：八紘石油ガソリンスタンドから点滅信号までの約100mの農免道路脇の側溝には上蓋がかけられているが、大型バスも通行しており乗用車などがすれ違う際は、幅員が狭いため上蓋の上を走行する。それにより上蓋の破損が頻繁に起こるため、金属製の上蓋をかけるなどの対策を考えていただきたい。県道関係の情報があれば教えてほしい。交通量を削減するため、竜ヶ崎土浦線の県道と、研究学園都市からひたち野うしく駅をぬけてくる県道25号線をつなぐ計画は、県でなされているのだろうか。

また、上池台団地と第8岡見団地を結ぶ部分の道路は蛇行した坂道で、朝夕の通勤・通学時間帯には車両の通行も多く歩行者や自転車にとっては危険な場所となっている。道路脇道にガードレールが設置されているが、一部設置されていない。児童や自転車の転落防止のため設置をお願いしたい

建設部長：破損状況を確認した。表面上に若干の破損は見受けられるが、蓋としての機能は問題ないと考えている。ご指摘のとおり、大型バスが通行しているため、今後も状況の確認を行っていく。金属製のグレーチングへの交換は、今後の破損状況等を見極めたうえで判断していく。尚、当該側溝蓋は、車が乗ることを想定した蓋である。

西大通線の延長と土浦竜ヶ崎線の延伸計画については、茨城県で計画を持っている。当面は土竜線バイパスまで、インターまでの区間を整備する予定。西大通線の延伸については、阿見町市内へ一部工事を実施している。完成時期については情報を得ていない。情報があればまた提供したいと思う。

市民部長：交通安全対策につきましては、引き続き行政区と協議をしながら看板設置等を考慮し進めていきたいと思っている。意見場所へのガードレール設置は終了している。

区長：ガードレールに関しては、早急に対処していただいた。

【上池台行政区】

区長：小学生の通学路で、雨が降った時など非常に危ない場所がある。車両が通るたびに壁に手をつけて避けているとの話があった。上池台の児童ではなく下根ヶ丘の児童32～33名がサポーターの方と通学をしていた。道路は5.5mで、側溝に蓋をすると6mの道路になる。当該場所は交通量が多く危険であることからU字溝に蓋をしてもらいたい。

また、空家対策課に連絡した案件について、その後の連絡が無い。クレームに繋がらないためにも、空家所有者に対してどのような対応をし、状況の結果報告を、きちんとしてもらいたい。

建設部長：当該箇所だけでなく団地内のほとんどのU字溝は、舗装面より低い場所に設置されているため、現在のU字溝の上に蓋をかけてもその上を歩ける状態にはならないと考えている。団地内のU字溝は、老朽化なども進んでいることから、U字溝そのものの入れ替

えを実施していかなければならないと考えている。U字溝の整備については、多くの行政区より要望をいただいている。これまで国からの交付金に頼って事業を実施してまいりましたが、ここ数年、交付金が得られず整備が実施できない状況にあり、ご迷惑をおかけしている。今後につきましても目途がたっていない状況であることから、来年度より交付金に頼らず市の一般財源での事業展開を検討している。今後、一度に多くの整備は難しいと考えておりますが、着実に整備が進むよう緊急性などを勘案し、各行政区と協議をしながら計画的に実施してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

上池台行政区内の空家情報は42件を把握しており、うち、適正管理や改善された物件が32件となっております。残る10件については、適正な管理がされていないことから、引き続き、助言・指導をして改善を求めています。東岡見行政区からの意見回答と同様、近隣住民の生活環境に悪影響を及ぼすような状態である空家に対しては、市条例の指導から、上位法である「空家対策推進に関する特別措置法」に基づく「特定空家」の認定へと進んでいく。認定後は、指導・助言、勧告命令等、進めていき、最終的には行政代執行を視野に入れて対応していきたいと考えている。空家対策計画については、最終的な取りまとめが完了しましたら行政区の方々に対し、説明会を行っていく。

区長：苦情があった際の回答を、速やかに行っていただきたいと思う。

建設部長：当事者に回答するか、区長に途中経過を伝えるか、いずれかの方法を考えさせていただきます。

15：35閉会